

寒河江市生活交通ネットワーク計画

山形県寒河江市

寒河江市生活交通ネットワーク計画の策定にあたって

本市では、新第5次寒河江市振興計画により目指す将来都市像として「夢集い 人・緑輝く さくらんぼの都市（まち）寒河江」を掲げ、平成27年度を目標年次として、まちづくりを進めており、交通政策もそれに基づき、平成23年11月からデマンドタクシーの運行を開始しているところです。

デマンドタクシーの運行については、路線バスの停留所から500メートル以上離れている地域などを交通空白地帯と定義し、その交通空白地帯である市内の5つのエリアと医療機関や商業施設等を結んで運行し、利用者は年々増加している状況となっています。

一方、今回の計画策定において、デマンドタクシー運行エリア外で実施した調査や意見交換会では、交通空白地帯の定義にはあてはまらないものの、公共交通の利用がしづらい地域があるとのことをご意見をいただいております。また、現在は公共交通を利用していない方でも、今後高齢となり自家用車の運転が出来なくなった際に、日常生活の移動に対し不安を持たれている方が多くいらっしゃる事がわかりました。

このため、将来を見据えた市民の皆様が利用しやすい公共交通網を、行政だけではなく、地域や交通事業者の関係者等と連携し、本市の実情に応じた新たな公共交通サービスを提供していくために、この計画を策定いたしました。今後は、この計画に基づき施策を推進し、市民の皆様の日常生活における利便性向上を図ってまいりたいと考えております。

結びになりますが、本計画の策定にあたり、多大な御尽力を賜りました寒河江市地域公共交通会議の委員各位をはじめ、公共交通の実態調査や意見交換会に御協力いただいた市民の皆様に深く感謝申し上げます。

寒河江市長 **佐藤洋樹**

寒河江市生活交通ネットワーク計画

～目 次～

1. 計画の概要	1
1-1. 計画の目的	1
1-2. 対象区域	2
1-3. 計画の期間	2
1-4. 計画策定までの進め方	3
2. 地域の現況	4
2-1. 地域特性	4
3. 公共交通の現況	15
3-1. 公共交通の運行状況	15
3-2. 公共交通の利用状況	20
3-3. 公共交通に対する寒河江市の財政負担状況	26
3-4. 上位計画における公共交通施策の位置づけ	28
3-5. 公共交通に対する地域住民のニーズ	29
4. 地域公共交通の課題	33
4-1. 現状と課題のとりまとめ	33
4-2. 寒河江市の地域公共交通の基本課題	35
4-3. 寒河江市全体の課題	38
4-4. 地区別現況と課題	39
5. 寒河江市生活交通ネットワーク計画	47
5-1. 基本方針	47
5-2. 施策体系	49
5-3. 生活交通ネットワーク形成の方向性（全体計画）	50
《参考》市街地における交通弱者への対応策比較	51

資料編

《参考資料-1》地域住民アンケート調査	資料 1-1
《参考資料-2》路線バス利用実態調査	資料 2-1

1. 計画の概要

1-1. 計画の目的

本市の主な交通網は、国道112号・287号線をはじめ、山形自動車道、JR左沢線や定時定路線型の山交及び天童市営バスがある。

また、公共交通空白地帯において、タクシー事業者への委託によるデマンドタクシー事業を平成23年11月から実証実験を行い、平成24年11月から本格運行している。現在は幸生エリア、田代エリア、醍醐エリア、谷沢エリア、中郷エリアの5つのエリアで運行しており、交通空白地帯で移動手段を持たない高齢者等の交通手段として通院や買物などに利用され、徐々に浸透してきている。

一方、路線バスの沿線地域は公共交通空白地帯の定義外であるが、最寄りのバス停まで徒歩では移動できない高齢者も多いことや、医療機関や商業施設がバス路線に無いことにより、市街地内の移動手段を求める市民の声も多くなっている。

このような現状を踏まえ、寒河江市が抱える交通の諸問題を解決するため、市内それぞれの地域内移動のニーズを把握し、地域ごとに異なる地理的・社会的特性に合った交通の導入を図り、現在の交通ネットワークを補完する地域内の移動手段を確保することを本計画の目的とする。

1-2. 対象区域

本計画の区域は、寒河江市内全域を基本とし、市民の生活交通ネットワークの広がりから必要に応じて周辺市町村を含む。



図 1-1 計画対象地域

1-3. 計画の期間

本計画の期間は、平成 27 年度から平成 31 年度の 5 カ年とする。

1-4. 計画策定までの進め方

本計画の策定は、以下の流れ・手順に沿って行った。

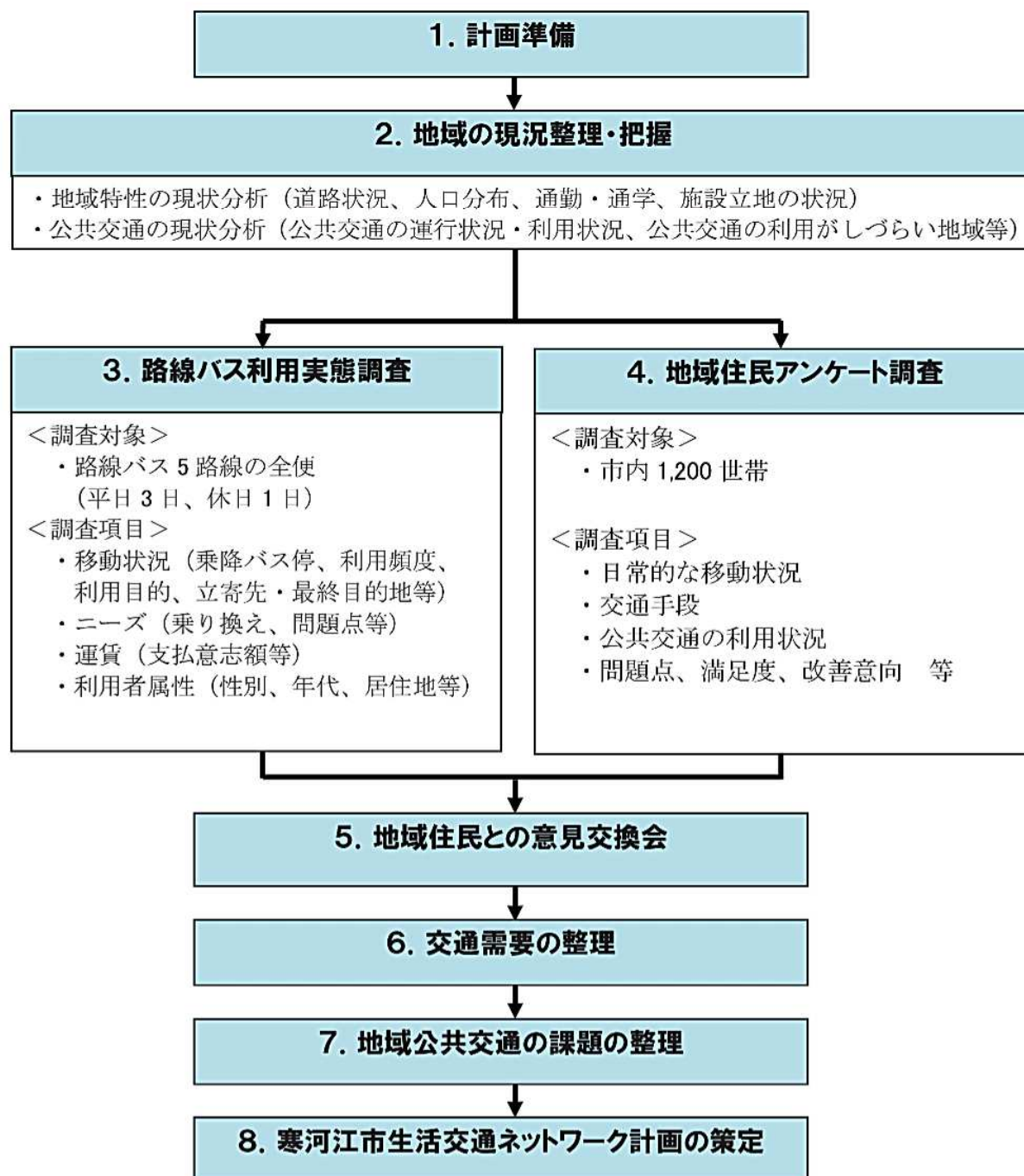


図 1-2 計画策定フロー

2. 地域の現況

2-1. 地域特性

2-1-1. 寒河江市の概況

寒河江市は、山形県のほぼ中央に位置し、山形市から 20 km 圏内にある都市である。

一級河川の最上川や寒河江川が市街地を囲むように流れ、月山と葉山、遠くに蔵王、朝日連峰を望み、四季の変化に富んだ景観と豊かな自然環境に恵まれている。

西村山地域の中核として発展し、庄内地方と県都山形市を結ぶ国道 112 号が市内を走っており、また、庄内地方と宮城県とを結ぶ山形自動車道には、寒河江 IC と寒河江 SA スマート IC でアクセスしており、県内高速交通網の要衝となっている。

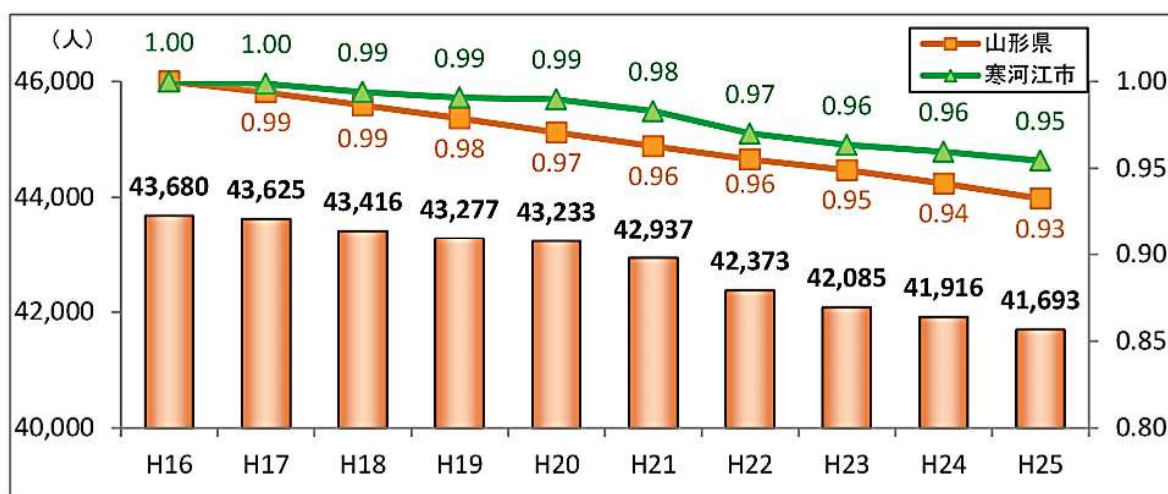


図 2-1 寒河江市の概況

2-1-2. 人口

(1) 人口の推移

寒河江市の人口は山形県全体の傾向と同様に減少し続けており、平成25年には平成16年と比較し約5%減少している。



資料：山形県 HP「山形県の人口と世帯数」

図 2-2 寒河江市の人口推移

表 2-1 人口推移

(単位:人)										
年次	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
寒河江市	43,680	43,625	43,416	43,277	43,233	42,937	42,373	42,085	41,916	41,693
山形県	1,223,731	1,216,181	1,207,059	1,197,802	1,187,790	1,178,148	1,168,924	1,161,294	1,151,863	1,141,260

(H16基準とした場合)										
年次	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
寒河江市	1.00	1.00	0.99	0.99	0.99	0.98	0.97	0.96	0.96	0.95
山形県	1.00	0.99	0.99	0.98	0.97	0.96	0.96	0.95	0.94	0.93

資料：山形県 IIP「山形県の人口と世帯数」

(2) 人口分布状況

寒河江駅、市役所が立地する地域を市の中心とし人口が集中している。

下河原・宝地区や本橋・高屋地区、陵南中学校周辺は、比較的人口が密集している地域であるが、地域の一部がバス路線から500m以上離れており、公共交通が利用しにくい地域となっている。

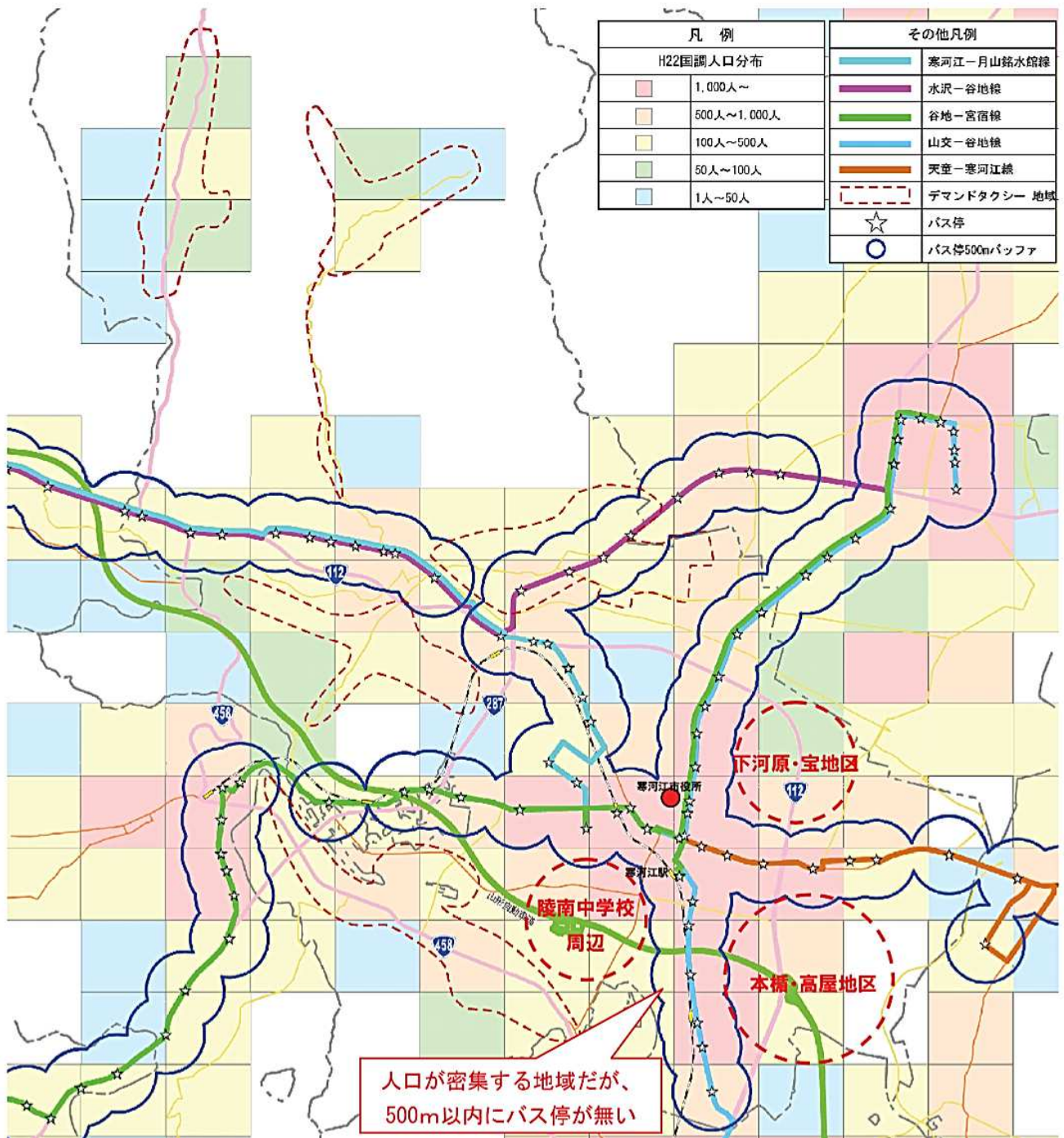


図 2-3 人口分布状況

(3) 年齢別人口

平成 17 年以降、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）は減少し続けている一方、老年人口（65 歳以上）は増加し続けており、少子高齢化が進行している。

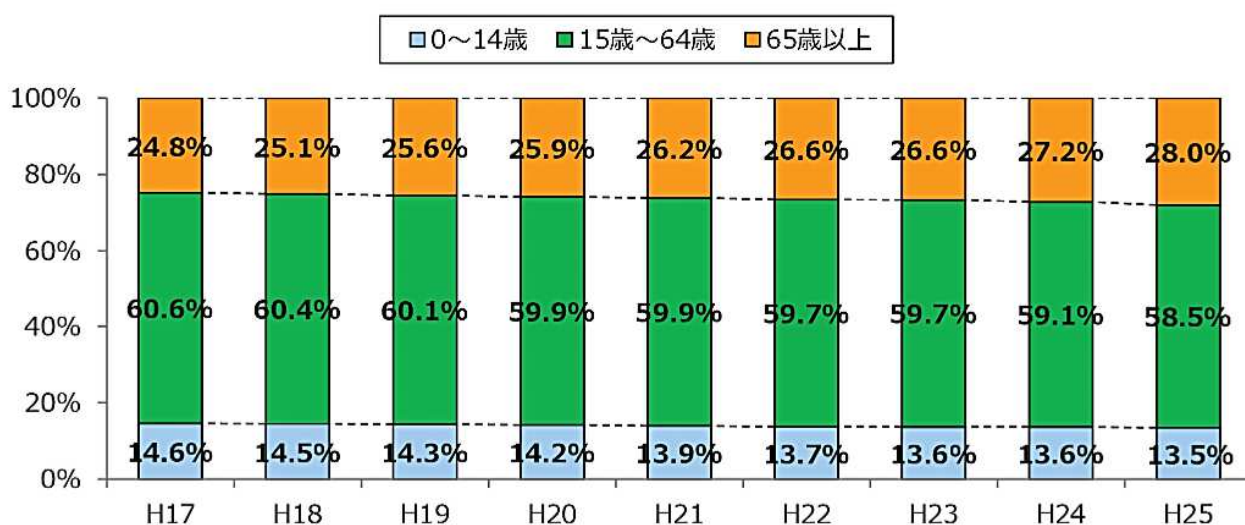


図 2-4 年齢別人口推移

資料：寒河江市 IIP「統計情報(2014)」

(4) 自動車保有台数

寒河江市の自動車保有台数は 0.37（台/人）と山形県平均に比べ高く、自動車への依存が比較的高い都市である。

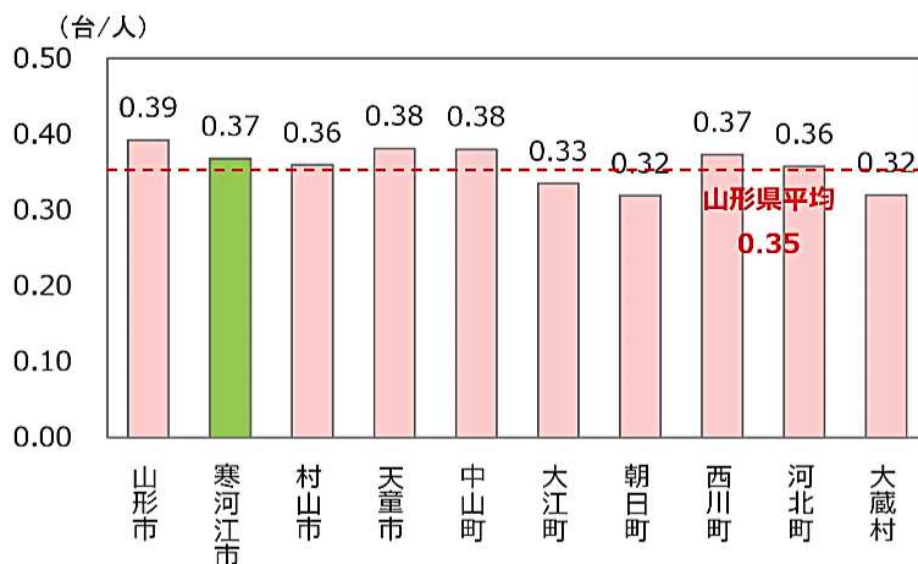


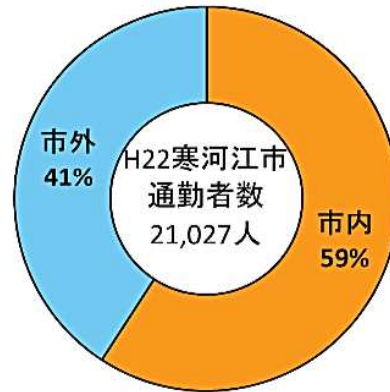
図 2-5 自動車保有台数(H26.3.31 時点)

資料：東北運輸局山形支局HP
「平成 26 年 3 月末の市町村別自動車保有車両数」

(5) 通勤流動

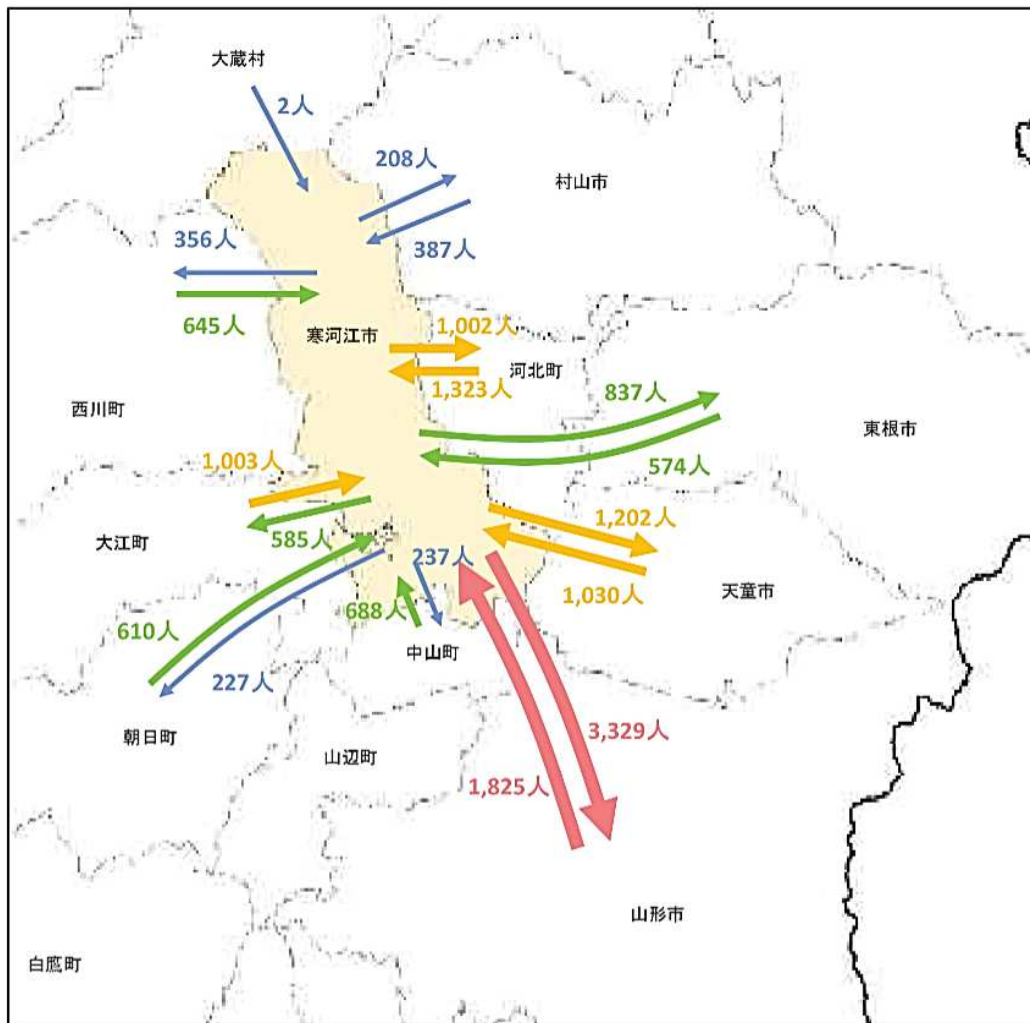
寒河江市の通勤者の約6割は市内、約4割は市外へ通勤しており、市外では山形市への移動が約3,300人と最も多く、次いで天童市へ約1,200人、河北町へ約1,000人となっている。

また、市外からの通勤者は、山形市からの移動が約1,800人と最も多く、次いで河北町から約1,200人、天童市と大江町から各々約1,000人となっている。



資料：H22 国勢調査

図 2-6 寒河江市の通勤先内訳



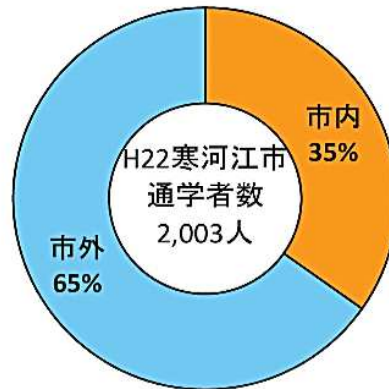
資料：H22 国勢調査

図 2-7 通勤者の市外通勤先

(6) 通学流動

寒河江市の通学者の約 35%は市内、約 65%は市外へ通学しており、山形市への移動が約 870 人と最も多く、次いで河北町へ約 100 人、大江町へ約 80 人となっている。

市外からの通学者は、山形市と河北町からの移動が約 130 人と最も多く、次いで天童市から約 90 人、大江町から約 80 人となっている。



資料：H22 国勢調査

図 2-8 寒河江市の通学先内訳

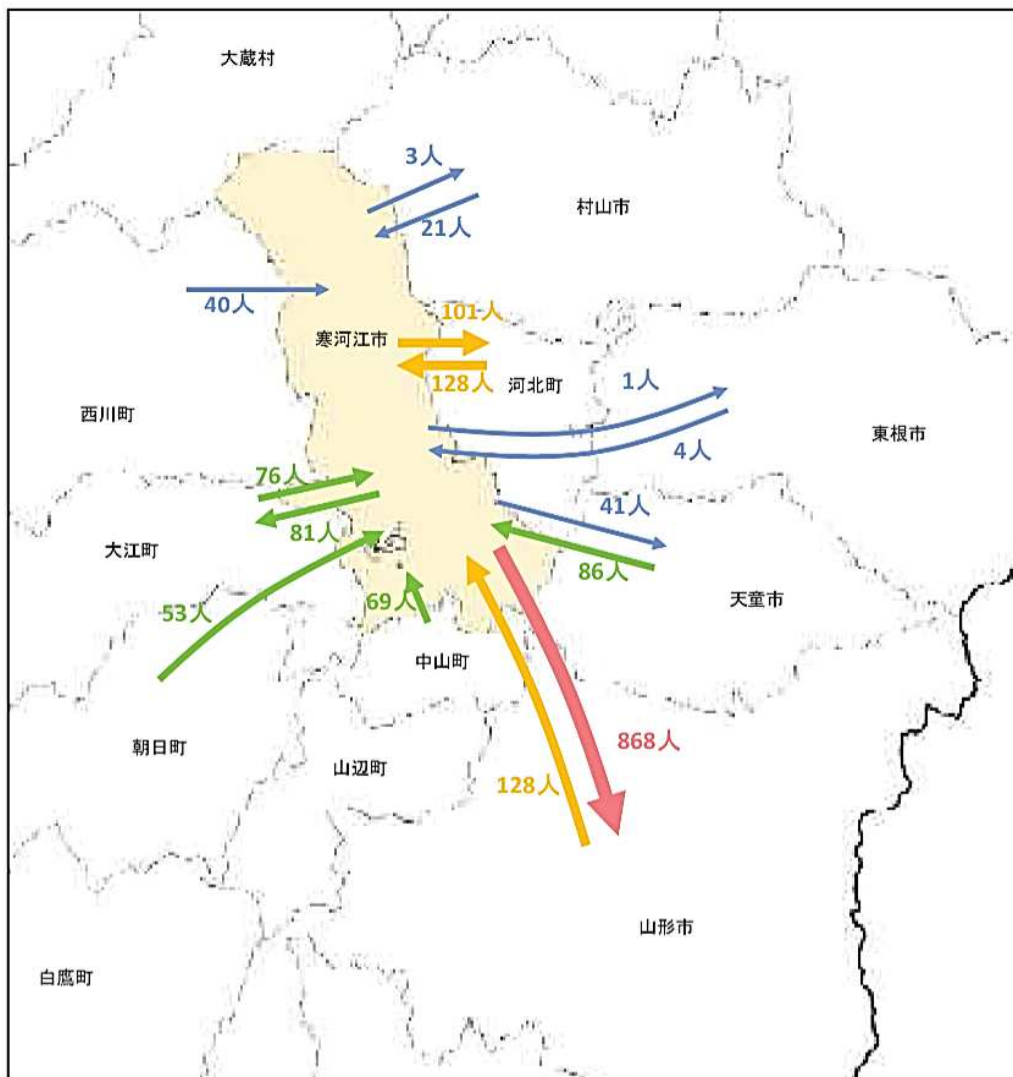


図 2-9 通学者の市外通学先

2-1-3. 施設分布状況

(1) 医療機関

寒河江市の医療機関は中心部に集中しており、郊外の居住者は中心部まで通院する必要がある。バス停「市役所前」付近には複数の医療機関が立地しており、バス停からの距離は100m以内であるが、医療機関全体の平均では288m離れており、高齢者にとっては通院時の負担となっている。

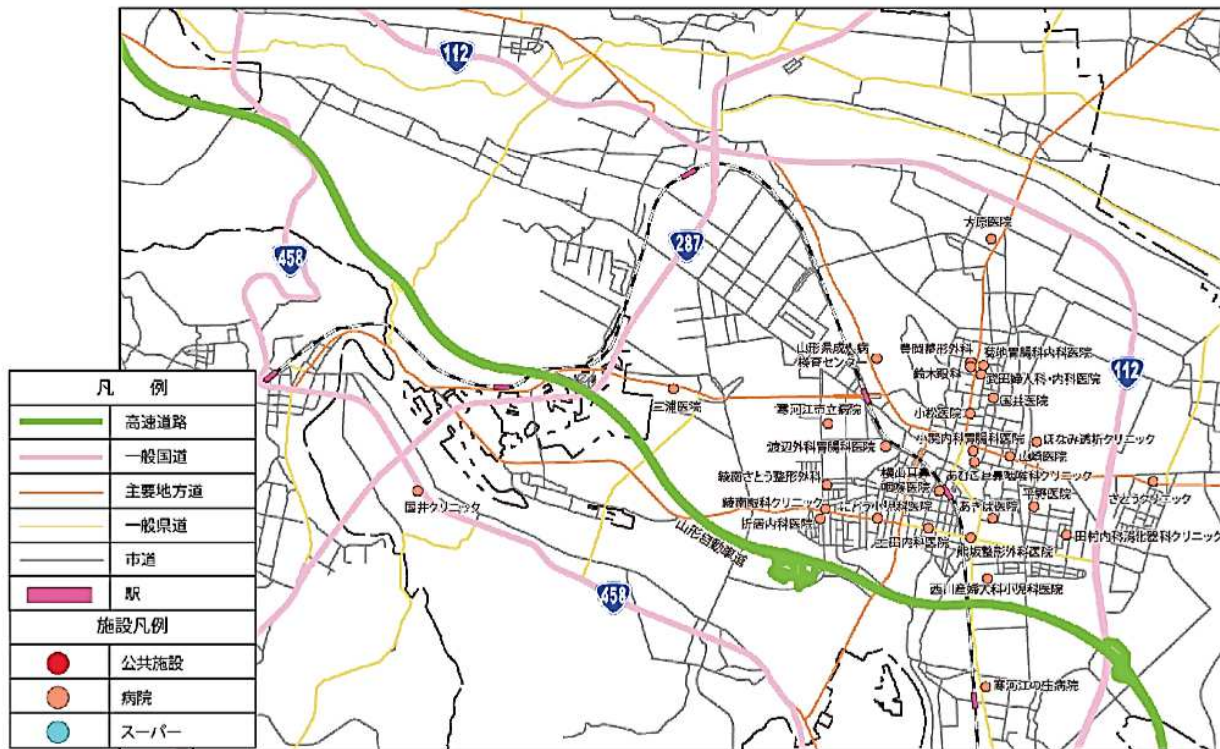


図 2-10 主な施設（病院）

表 2-2 医療機関から最寄バス停までの距離

No.	病院名	住所	診療科目	最寄のバス停	
				バス停名	距離
1	寒河江市立病院	寒河江市大字寒河江字塩水80	内科、整形外科、外科、皮膚科、眼科	寒河江市立病院	10m
2	陵南さとう整形外科	寒河江市内ノ袋1-9-6	整形外科、リハビリテーション科	寒河江市立病院	600m
3	陵南眼科クリニック	寒河江市仲谷地2-3-6	眼科	寒河江市立病院	800m
4	大原医院	寒河江市西根下堰509	内科、皮膚科	総合支庁前	150m
5	豊岡整形外科	寒河江市中央1-13-31	外科、整形外科、リウマチ科	市役所前	100m
6	菊地胃腸科内科医院	寒河江市中央1-14-11	内科、胃腸科	市役所前	100m
7	鈴木眼科	寒河江市中央1-13-35	眼科	市役所前	50m
8	武田婦人科・内科医院	寒河江市中央1-14-36	内科、婦人科	市役所前	50m
9	国井医院	寒河江市中央1-5-27	内科	新町角	250m
10	小松医院	寒河江市本町2-11-43	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科	新町角	100m
11	小関内科胃腸科医院	寒河江市本町2-5-20	内科、胃腸科	本町通	150m
12	山崎医院	寒河江市丸内1-5-30	内科、脳神経外科	寒河江郵便局	200m
13	あびこ耳鼻咽喉科クリニック	寒河江市南町2-1-12	耳鼻咽喉科	寒河江郵便局	200m
14	平野医院	寒河江市小沼町69-1	泌尿器科	南町通	400m
15	ほなみ透析クリニック	寒河江市丸内3-4-34	内科	南町通	300m
16	渡辺外科胃腸科医院	寒河江市寒河江字小和田25-1	外科、胃腸科	八幡前	400m
17	あきば医院	寒河江市末広町2-33	整形外科、内科、外科、皮膚科	栄町	300m
18	土田内科医院	寒河江市元町2-4-3	内科、循環器科	栄町	450m
19	熊坂整形外科医院	寒河江市栄町7-11	整形外科	栄町	50m
20	さとうクリニック	寒河江市日田五反204-3	内科、呼吸器科、循環器科	新山	50m
21	田村内科消化器科クリニック	寒河江市高田1-10-10	内科、消化器内科	本樋口	700m
22	スマイルレディースクリニック	寒河江市大字寒河江字月越5-2	産婦人科、小児科	寒河江南	200m
23	寒河江の庄病院	寒河江市大字島字島東217	内科、心療内科、精神科	高屋口	200m
24	三浦医院	寒河江市大字柴橋718-1	内科、循環器科	柴橋西	200m
25	国井クリニック	寒河江市大字中郷1450-1	内科、産婦人科、婦人科	松川	1200m
				平均	288m

(2) スーパー・商店

商店は中心部に集中しているが、スーパーは中心部外縁や郊外などに立地している状況である。寒河江市内のスーパー8店舗の内、半数はバス停から200m以内に立地するが、半数は600m以上離れて立地している。

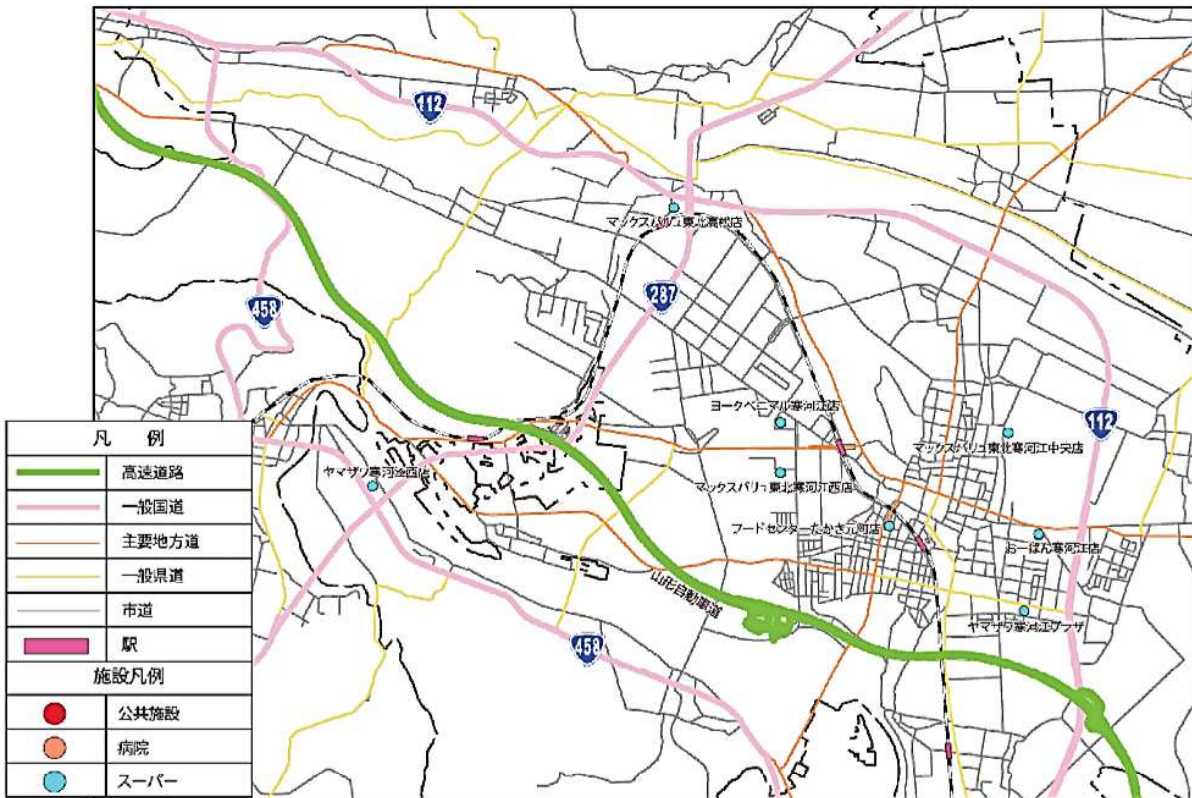


図 2-11 主な施設（スーパー）

表 2-3 スーパーから最寄バス停までの距離

No.	病院名	住所	最寄のバス停	
			バス停名	距離
1	おーばん寒河江店	寒河江市越井坂町145-3	本楯口	150m
2	フードセンターたかき元町店	寒河江市元町1-16-1	八幡前	600m
3	マックスバリュ東北高松店	寒河江市大字高松字郷ノ目274	高松駅前角	100m
4	マックスバリュ東北寒河江西店	寒河江市大字寒河江字塩水69	寒河江市立病院	10m
5	マックスバリュ東北寒河江中央店	寒河江市ほなみ2-1-9	市役所前	700m
6	ヨークベニマル寒河江店	寒河江市大字寒河江字鶴田54	鶴田	20m
7	ヤマザワ寒河江プラザ	寒河江市大字寒河江字横道65-1	栄町	750m
8	ヤマザワ寒河江西店	寒河江市中郷字角田1600	松川	800m
			平均	391m

半数の店舗がバス停から
600m以上離れて立地

2-1-4. 市民の生活行動の状況

(1) 行動時間

買物時には10時台に出発するケースが最も多く、約21%を占める。

通院時には8～10時台に出発するケースが多く、帰宅時間は10～12時台と、午前中のうちに通院を済ませるケースが多くみられる。

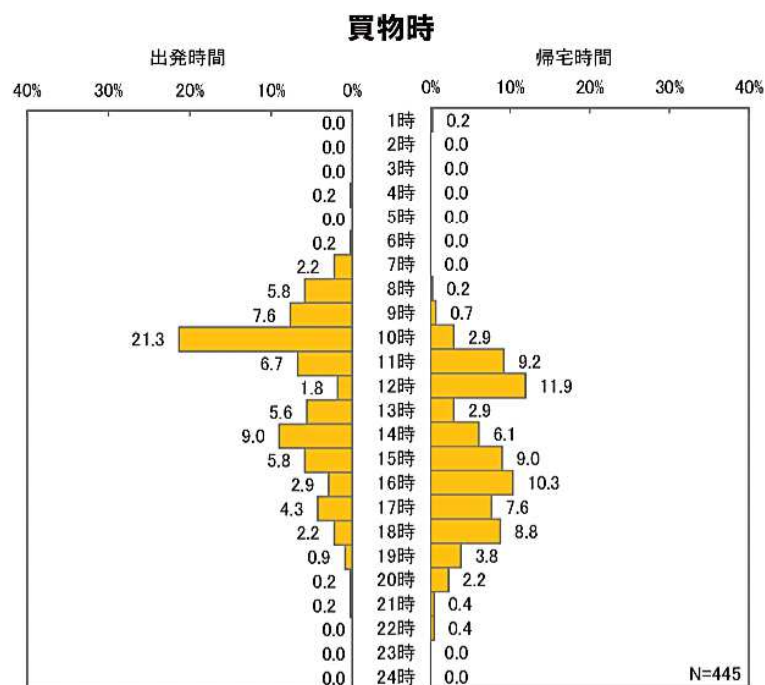


図 2-1 2 生活行動状況 (買物)

資料 : H26.9 地域住民アンケート結果

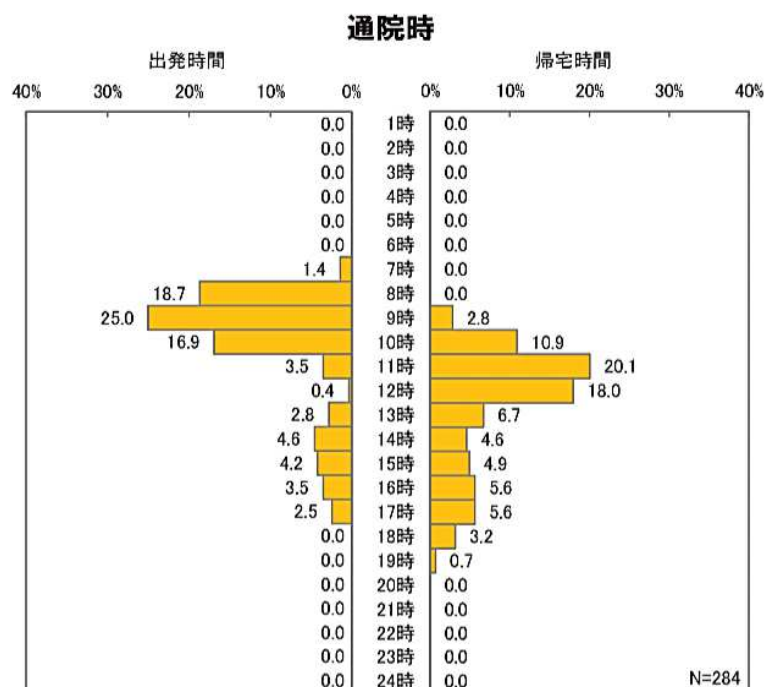


図 2-1 3 生活行動状況 (通院)

資料 : H26.9 地域住民アンケート結果

(2) 交通手段

買物時には自家用車（自分で運転、家族による送迎）での移動が約90%を占めており、公共交通による移動は約3%となっている。

通院時には、買物時と比べ家族による送迎の割合が高く約17%となっており、公共交通による移動は約4%となっている。

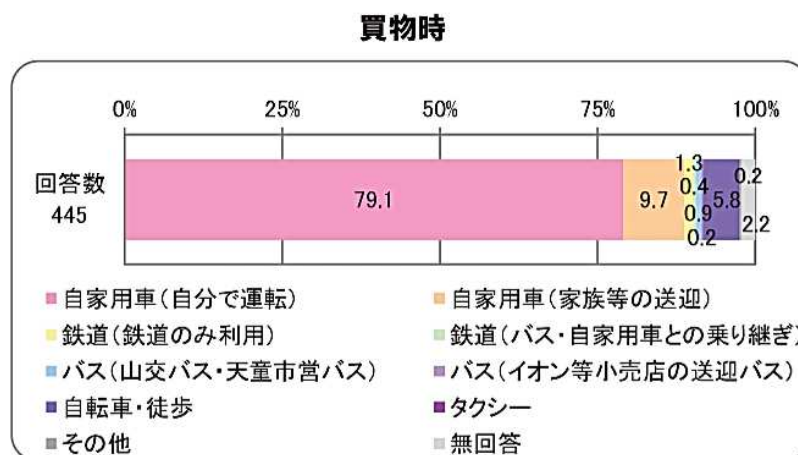


図 2-14 交通手段（買物）

資料：H26.9 地域住民アンケート結果

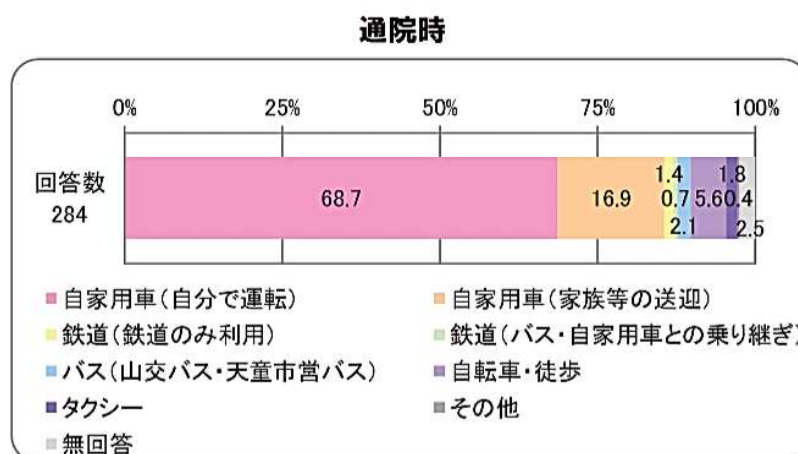


図 2-15 交通手段（通院）

資料：H26.9 地域住民アンケート結果

(3) 外出頻度

買物は週1～2日の割合が高く約39%、ほぼ毎日の割合は約16%となっている。
通院による外出頻度は月1回が約62%と最も高い割合となっている。

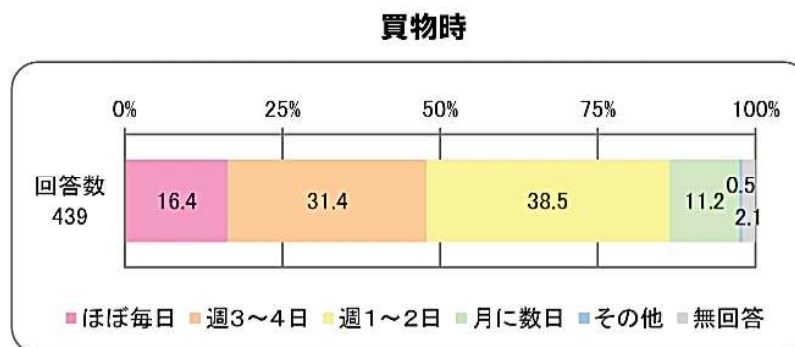


図 2-16 頻度（買物）

※市内における移動の場合

資料：H26.9 地域住民アンケート結果

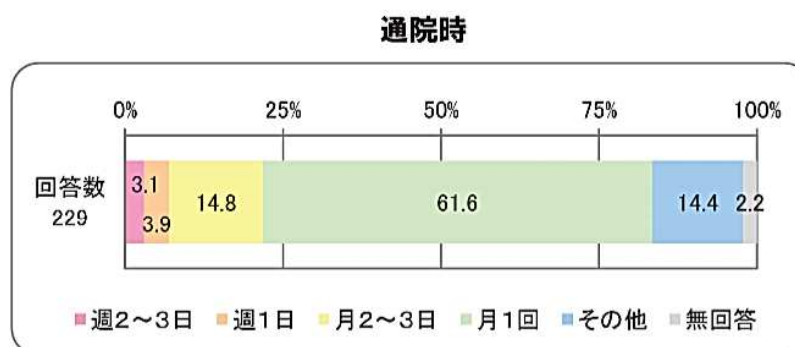


図 2-17 頻度（通院）

※市内における移動の場合

資料：H26.9 地域住民アンケート結果